



事例研究

キタの思春期の女の子の安全な空間の 戦略と影響



Belgium

partner in development

目次

要約 3

背景 4

AGSSプログラム手法 5

AGSSとは 5

なぜAGSSが重要なのか 5

AGSS設置上における基本原則 6

キタでのAGSS設置における主な段階 7

第1段階: 文脈分析・評価 8

第2段階: AGSS計画策定 10

第3段階: 活動の設計・運営 12

第4段階: 監督・評価 18

第5段階: 撤退戦略 18

10代の女の子の生活へのAGSSの影響に関する考察 19

提言 20

Annex 23

参考文献 23

略語集

AGSS	思春期の女の子の安全な空間
CCPC	子どもの保護コミュニティ委員会
FGD	フォーカス・グループ・ディスカッション
FGM	女性性器切除
IGA	収入創出活動
PEP	曝露後予防(抗HIV薬)
PI	ブラン・インターナショナル・マリおよびベルギー
SGBV	ジェンダーに基づく暴力
SRHR	性と生殖に関する健康と権利

要約

2021年、プラン・インターナショナルはキタでの人道支援下で、思春期の女の子の保護とエンパワーメントを強化するプロジェクトを実施した。同プロジェクトには、思春期の女の子の安全な空間(AGSS)の設置が含まれていた。

キタでのAGSSの設置

AGSSプログラムの構築に、体系的な参加型手法が採用され、思春期の女の子の特定のニーズに効果的に対応するよう、いくつかの重要な段階が設けられた。この手法は、現地の状況・ジェンダー規範・コミュニティの力学に関する詳細な分析から始まり、AGSS設置に伴うリスクと可能性の特定に役立った。設置に選定された場所の安全性を保障するため安全性検証も実施され、その後、思春期の女の子に必要な支援を効果的に紹介するため、利用できるサービスをマッピングした。コミュニティリーダーや保護者、10代の女の子自身を含むコミュニティの関与は、AGSS活動の設計・運営のために極めて重要であった。AGSSプロジェクトの運営において、女性中心のチームが編成され、女の子のニーズに合ったサービス提供ができるようにした。AGSSが提供する活動は、心理社会的支援・生殖の健康教育・ライフスキルや経済スキルのワークショップ等、多様であり、それらすべてが女の子の特定のニーズを満たしエンパワーメントにつながるよう設計された。AGSSの効果を評価し、必要な調整を行うため、活動の定期的な視察と監督体制が整備された。

思春期の女の子へのAGSSの影響

AGSSはキタでの性とジェンダーに基づく暴力(SGBV)の予防・対応に大きく貢献し、思春期の女の子が自己表現し、学び、心理社会的/法的支援を得られる安全な環境を提供している。彼女たちはSGBV関連の危険を深く理解し、対処できるようになり、幸福感向上とライフスキルの強化を実現している。

提言

1. AGSS設置前に、ジェンダー分析・リスクおよびニーズ評価・保護サービスのマッピングを実施すること
2. 思春期の女の子がAGSSの設計・開発に、敬意を払われ積極的に参加できるようにすること
3. 構成員が女性だけのAGSS運営チームを設置すること
4. 参加者の年齢とニーズに合わせた多様な活動を提供し、AGSSでの心理社会的支援を最適化すること
5. SGBVに対するスティグマ解消・撲滅の主要戦略としてAGSSでの世代間対話を実施すること
6. コミュニティ・宗教指導者の戦略的関与によるAGSSの影響力と持続可能性の強化を行うこと
7. AGSSを活用してSGBVの事例を特定し、適切な支援サービスへつなげること
8. 緊急事態下の子どもの保護のための総合戦略にAGSSを統合させること

背景



マリは、不安定な治安情勢や食料不安等の重大な構造的課題と危機の長期化を経験しており、人びとの生活への影響は深刻であり、大規模避難が生じている。COVID-19でその状況は一層悪化しており、危機による経済的な悪影響で多くの世帯の家計が不安定な状況に追い込まれ、早すぎる結婚(児童婚)等の負の対処手段を取らざるを得ない状況に陥っている。また、移動制限や医療サービスへの圧力により、思春期の女の子の、教育や生殖に関する健康サービスの享受を含む必須サービスの利用が妨げられ、彼女たちを保護する体制が弱体化している。

SGBVが広く蔓延し、体系的・文化的に根付き、女性の2人に1人が暴力を経験しているという¹状況下で、危機の長期化とCOVID-19の影響により、思春期の女の子の脆弱性が高まっている。2020年に実施した調査では、COVID-19の影響で初めてのSGBVの発生率が50%近く増加したと推定された²。

そうした保護のニーズに対応するため、PIは、ベルギー開発協力・人道援助総局(DGD)の資金援助を受け、キタ地域の女の子へのSGBVと闘うプロジェクトを立ち上げた。同プロジェクトは、2021年～2023年の30カ月間に実施され、キタ地域のサバイバーが包括的で良質なケアを享受できる、SGBVがなく、レジリエンスのある環境を創出できるよう、思春期の女の子・女性・彼女たちのコミュニティの能力強化を高めることを目的とした。

同プロジェクトの計画的手法は、以下の3つの軸に基づいている。

- コミュニティの参加によるSGBVの防止
- SGBVのサバイバーである子どもへのケアの向上
- 10代の女の子へのエンパワーメントとサービスに関する知識の付与

同プロジェクトの一環として、PIはキタに12のAGSSを設置した。AGSS設置から得た教訓を活かすため、PIはプロジェクトの受益者である女の子の証言を収集したものや実施チームへのインタビュー等の、さまざまなプロジェクトの報告書の分析に基づき、本事例研究書を作成した。特に本書では、AGSS設置過程と得た教訓を記録し、各AGSSのSGBVの防止・撲滅に対する効果の強化を目的としている。

人道支援下のプラン・インターナショナルのSGBVに対する取り組み³

SGBVとは、ジェンダー規範と、不平等な力関係に基づく、個人の意思に反して犯されるあらゆる行為を指す。SGBVは、身体的・心理的・性的な特徴を持つ場合や、暴力の脅威という形をとる場合がある。また、リソースやサービスへのアクセスを剥奪する形であったり、子どもに性的画像・行為を見せたり、彼らを性的目的で撮影することも、SGBVの一形態である。

プラン・インターナショナルは、人道支援における子どもの保護の最低基準での用語に準拠し、年齢・子どもの発達段階に応じた能力・大人や保護者への依存等、ジェンダーに留まらないリスク要素を強調するため、SGBVという用語を使用している。

¹ INSTAT, CPS/SS-DS-PF and ICF. (2019). Mali Demographic and Health Survey 2018.

² UN Women, UNFPA. (2020). マリにおけるCOVID-19のジェンダーに基づく暴力(SGBV)への影響に関する調査。

³ Plan International. (2022) 子どもに対するSGBVへの取り組み。

AGSSプログラム手法

AGSSとは

AGSSとは、10代の女の子のために設けられた場所である。そこで彼女たちは、身体的・情緒的な安全が尊重され、情報共有・サービス利用の支援・個人/社会的なエンパワーメント・心理社会的ケアを通じて支援を受けている。

AGSSは、人道危機下の女の子の特定のニーズに対応することを目的としている。その空間は、SGBVの防止・対応に重点を置くことで、彼女たちの健康・安全・エンパワーメントの促進を目指していた。主な介入策として、思春期の女の子へのライフスキル研修・余暇/教育活動・健康/心理社会的支援に関する情報提供・利用可能なサービス/支援に関する情報提供が含まれた⁴。それらの空間はまた、暴力のサバイバーに対する心理社会的支援や、保護事例管理等の専門的サービスへの窓口としても機能した。

AGSSを盛り込んだプログラムは、思春期の女の子を対象としている。また、保護者向けの議論の機会を設け、彼女たちを効果的に支援するとともに、コミュニティと連携して女性と女の子に対する意識改革を推進し、彼女たちが潜在能力を発揮し自身の権利を守ることを支援していた。



それらの安全な場所は、重要な情報の入手・支援ネットワークの構築・専門的サービスの利用が可能な安全な環境を提供しており、10代の女の子の保護のために極めて重要な役割を果たしていた。

AGSSは独立した専用の空間として設置される場合や、10代の若者や子ども向けの施設内に、AGSSとして女の子/10代の女の子専用の時間枠を設けて統合されている場合があった。AGSSは参加型で設計・運営されている。危険にさらされている女の子や10代の若者が過ごせる安全な環境を提供している。

キタに設置されたAGSSは、10歳～17歳の女の子を対象とし、異なる年齢層(10歳～14歳と15歳～17歳)に応じた活動を実施した。それらの活動は女の子と共に決められ、活動計画はコミュニティの特定の住民と共有された。

なぜAGSSが重要なのか

マリでは、ほとんどの公共空間が男性と男の子により占有・支配されている。AGSS等の思春期の女の子のための空間は、彼女たちが自身に影響する問題について自由に意見を示し、自身の権利について学び、個人的なネットワークの構築が可能な唯一の場所となり得る。AGSSは、SGBVに遭う危険性が高い思春期の女の子に対し、男の子と女の子が共に学ぶ空間が必ずしも有効かつ適切な手段ではないという認識のもと、不平等なジェンダーの力関係を考慮し、緊急事態下の女の子の権利と幸福に焦点を当てた計画的手法に基づいている。

ジェンダーが混在した空間では、10代の女の子は、社会規範に反しているとみなされることを避け、考え・発言・服装・行動に敏感になり得る。そうした不平等なジェンダー規範を考慮に入れるためには、AGSSが10代の女の子のための空間で存在し続けることが必須である。

緊急事態下において、AGSSは思春期の女の子に接触し、SGBVに対する必須サービスと支援(特定と紹介)を提供する戦略として活用された。

⁴ Plan International. (sd). Adolescent Girl Safe Spaces Guidance Note: SGBV Guidance Note Series

AGSS設置上における基本原則



エンパワーメント: AGSSは、あらゆる思春期の女の子にエンパワーメントの場を提供し、個人やコミュニティが、彼女たちの生活と環境を自身でコントロールできる力を促進した。それには、不平等な力関係の特定と対処・情報とサービスの平等な入手/利用の実現・権利を主張し情報に基づく意思決定を行うための個人や集団の能力の積極的な構築が必要であり、エンパワーメントを促す環境は、常に当事者意識と帰属意識を育めるべきである。

結束力: AGSSは、多様な集団に属する思春期の女の子が支え、刺激し合う場を提供している。それにより、彼女たちは自身が経験していた広域な不平等な力関係という文脈の中の、経験について理解することができた。AGSSは共有・メンター制度・協力を促し、個人や集団とのつながりを築く機会を提供した。

説明責任: AGSSの一貫性と透明性の保障には、いくつかの必須要素が存在した。思春期の女の子が自身の経験や懸念を率直かつ秘密裏に共有できるよう、メンバー全員の安全と機密性の保障が求められた。また、思春期の女の子が、設置場所・開所時間・サービスや活動内容等、AGSSの設計・実施に関する重要な決定に関与する機会を持つことも必要であった。彼女たちからの意見を受ける体制を整えることで、AGSSの設計・実施の全段階の意思決定に彼女たちが関与できることを保障した。

包摂: 安全な空間では、すべての女の子が尊重され、歓迎された。AGSSの職員とボランティアも同様に多様であり、「私たち」と「彼ら」という分断を避けるため、彼らに公平で包摂的な態度・考え・行動を示すことを求めた。

協働と連携: AGSSの手法は、女性・女の子主導の組織やコミュニティベースの子ども保護団体等、現地の市民社会との連携を中心に据えていた。そうした協働はAGSSの長期的成功にとって極めて重要であった。

女の子を中心に据えた手法: 第一に、女の子を中心に据えた手法は、思春期の女の子の特有のニーズ・意見・発達・彼女たち自身の可能性の実現を妨げ/断念させる偏見に満ちた言動を認識するものであった。そして第二に、この手法は、意思決定と提唱活動の中心に、女の子の関係性と実体験が据えられるのを促進した。

機密性: AGSSの設計・提供する活動/サービス・主催する議論は、同施設を利用する女の子の安全と機密性を最優先にすることが求められた。機密性は、参加に際し身元と共有した情報が保護対象となる、SGBVのサバイバーと思春期の女の子を保護するものであった。

キタでのAGSS設置における主な段階

本セクションでは、PIがキタでのAGSS設置で行った手順⁵と、各段階で得られた教訓について説明する。

第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
文脈分析・評価	AGSS計画策定	活動の設計・運営	監督・評価	撤退戦略
<ul style="list-style-type: none"> 文脈・ジェンダー分析 検証 利用可能なサービスのマッピングと一覧化 成果重視の予算編成 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティと女の子の関与 女の子とのAGSSでの活動とスケジュールの検討 チームの選定と研修の実施 撤退戦略の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 開会式でのAGSSの目的のコミュニティへの周知 ニーズに対応する現地の物資を用いた活動の設定 活動の監督とケアサービスへの紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 視察・品質監督ツール・女の子へのインタビューによる活動の監督 安全性監督 コミュニティとの連携による強化 	<ul style="list-style-type: none"> AGSSの運営継続のための現地の女性ネットワーク・組織の能力強化 設備の移転 透明性のある撤退戦略の共有



⁵ Plan International. (sd). Adolescent Girl Safe Spaces Guidance Note: SGBV Guidance Note Series

第1段階

文脈分析・評価

危機の影響を受けた思春期の若者、特に思春期の女の子のニーズの評価は、AGSSの設置において極めて重要であり、その評価は以下の問いに答えることを図った：

- どの10代の若者/女の子の集団が危機の影響を最も受けているか
- 危険にさらされている思春期の女の子のニーズ・危険・脆弱な点・能力・優先事項は何か
- 思春期の若者、特に女の子のニーズを満たすため、どのようなサービス・支援が提供されるべきか

意思決定を支援するため、複数の評価が実施された。具体的には、ニーズと脆弱性評価・子どもに特化した複合リスク評価・安全性検証・紹介サービスのマッピングが行われた。

ニーズと脆弱性評価

プロジェクト実施の予備段階として、介入対象の村で、ジェンダーを考慮したニーズ・脆弱性評価が実施された。それにより、プロジェクトチームはキタの女の子と女性が影響を受けるジェンダー規範を理解し、危害の回避や既存の有害なジェンダー規範の強化防止策の策定が可能となった。

分析対象はキタ圏(ジディアン・ナマラ・スーラザン・サブーラ)のコミュニンに位置する40の村であった⁶。データ収集には女の子・女性・男の子・男性・コミュニティの利害関係者が参加した、参加型アプローチが採用された。

評価結果は、ほぼ全域で思春期の女の子が男の子より差別を受けていることを示した。SGBVは広域で発生しており、有害な慣行の廃止に対する強い抵抗があるようであった。10歳～17歳の思春期の女の子は、ジェンダーと年齢による二重の差別から、暴力や不平等に遭う機会が多く、コミュニティ生活への完全な参加や、自身の幸福に必須のサービス・情報の利用・入手が妨げられていた。思春期の女の子は特に、女性性器切除(FGM)・12歳以降の児童婚・同意のない性的関係・早期妊娠・親密なパートナーによる暴力(IPV)・中途退学の危険にさらされている。心理的・経済的暴力の概念は、コミュニティでは認知されていなかった。

保護サービスの利用に関し、SGBVへの対応の一環として提供されるサービスでは、医療処置が未だに主流であり、心理社会的ケアや法的ケアサービスは軽視されている状況が続いている。女の子と女性から挙げられた主なニーズの1つは、思春期の女の子とユース女性のための安全な空間の創出であった。

大部分のコミュニティは、SGBVを文化・宗教・伝統の尊重と結びつけていた。女性は家庭内での意思決定権や自由が極めて限られ、経済的自立もほとんどなく、生活環境や子どもの保護に悪影響を及ぼしていた。最も影響力を持つ利害関係者は、コミュニティや宗教の指導者と家族の父親であった。SGBV対策に関与する男性はごくわずかであった。

子どもに特化した複合リスク評価

ニーズと脆弱性評価に加え、PIが開発した手法を用いて、**子どもに特化した複合リスク評価**が実施された。この評価の目的は、女の子と男の子から、自身の環境に存在する危険性や、それが彼らの権利/家族/コミュニティに及ぼす影響、さらにさまざまなコミュニティ関係者の脆弱性と能力に対する見解を収集することであった。この参加型手法により、プロジェクト実施の初期段階からの子どもの関与と、コミュニティ関係者の子どもの環境に存在するさまざまな危険性を十分に理解してもらうことが可能となった。

現地向けの手引きとツールキットのさまざまなツールが活用された；コミュニティ横断移動(ツール7)は、子どもに安全で楽しい参加型の手法で、コミュニティ内の安全/危険と感ずる場所の共有を可能にした。その後、行動計画策定(ツール3)により、女の子と男の子はリスク低減活動を特定した。地域全体、特にキタでの治安状況を考慮し特定された危険性の1つは、反政府勢力による占拠や暴力発生の可能性であった。また、特定のジェンダー規範や差別的慣行が、現地の空間での活動に対する障壁として認識された。したがって、男性と男の子による空間の占有を防ぐために、空間の創設段階からの彼らの関与や、彼らとの協力による他のコミュニティ活動の強化が、空間が正常に機能するために求められた。同様に、保護者やコミュニティとのコミュニケーションの維持と女の子のスケジュールに合った空間での活動の調整が、女の子と10代の女の子が空間で活動に参加できなくなるリスクを低減する方法として特定された。

季節カレンダー(ツール4)は計画・予防ツールとして、コミュニティの女の子と男の子の干ばつ期や降雨期等の季節的な事象・傾向の明確な把握を可能にし、危険性・脆弱性の評価や、対処策の計画を可能にした。

6 ジディアン(15村)・ナマラ(10村)・サブーラ(8村)・スーラザン(7村)。

それらにより、特に雨季に関連したアクセス困難や洪水の危険に対応するため、AGSSの開館時間調整に女の子の意見を反映させることが可能となった。

安全性検証・予備対応策リスク評価

次に、76名の女の子と女性によるフォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)を実施し、照明やトイレ、シャワー、空間といった、キタの各村における女の子と女性の社会生活環境における実践的側面を対象とした、安全性検証を行った。それにより、AGSSの安全な設置方法が定義でき、また、それらのFGDにより、AGSS設置に伴う潜在的危険性について彼女たちと協議することが実現した。

既存サービスのマッピング

SGBV関連サービスのマッピングは、実質的に関係機関や取り組みのマッピング行われていなかったため実施された。関係機関のマッピングにより、AGSS実施前にSGBVの紹介体制を構築し、その枠組み内での事例管理を可能にした。具体的には、介入対象コミュニティ内の組織が提供するサービス・プログラム、そしてそれら組織の連携関係を検証しつつ、既存のサービス提供者の把握が行われた。その作業から、コミュニティ向けサービスにおいて対応されるべき箇所の特定が可能となった。

プロジェクトチームは、キタでNGOや国家機関等のSGBVに挑む活動を行う25のアクターを特定した。この25のアクターは、キタ中心部の都市部に集中していた。

各組織は、家庭内暴力(DV)の防止や調停、医療、法律支援、法執行、セキュリティ、生計支援に関する既存サービスを提供していることが確認された。それらの組織の大半は、SGBV、特に子どもを標的としたものへの対応は専門外であった。それらの組織は資金の有無によってはSGBV対策の活動を行う、「ジェネラリスト(全般的)」な組織であった。一方、専門アクターであるPIは、SGBVに関する特定のニーズへの対応に最適な組織であった。

マッピング作業で判明したもう1つの点は、利害関係者間の恒久的な調整体制の欠如であった。アクター間の紹介体制も、SGBVのサバイバーに対するスティグマ化が主因となり脆弱であった。紹介経路の調整強化と、保護分野の利害関係者間の正式で定期的な調整枠組みの構築の必要性が認められた。

成果重視の予算編成

計画段階では、AGSSの予算策定にあたり、以下の要素が考慮された:

- ジェンダー分析・保護リスク分析・他の状況評価
- 空間の調査・修繕
- 屋外設備と現地の教育・余暇施設の提供
- ファシリテーターへのインセンティブ・賞与
- 空間の維持費
- 安全維持費
- 職員研修費
- 空間視察・監督費
- フィードバック体制の導入

教訓

- **さまざまなコミュニティ住民が安全性評価に関わったこと**で、キタの地域事情に即した評価結果が得られた。
- コミュニティ住民、特に**男性と男の子**が安全性評価に関わったことで、コミュニティにAGSSの受け入れる準備が整った。
- 評価に異なる年齢層・ジェンダー・社会経済的背景・避難民である/ない集団を含めることで、**それぞれの脆弱性の理解**と、情報の流れ・意思決定・リソースの入手可能性等の**コミュニティ内の力学**の分析が可能となった。それらの情報は、ジェンダー不平等やその他の排除要因を助長することなく、リスク軽減計画を策定する上で必須である。
- AGSSの**財政的持続可能性**を保障するためには、プロジェクト終了時を見据えて、AGSSの計画段階から**革新的な方法**を特定することが重要である。

第2段階

AGSS計画策定

コミュニティと女の子の関与

コミュニティの利害関係者の賛同を得ることは、空間の円滑な運営と思春期の女の子がAGSS活動への参加により重大なスティグマを受けないために必須である。保護者・コミュニティリーダー・他の男性集団の関与が欠如すれば、AGSSで行われていることや、思春期の女の子が得ている情報について、噂や憶測が生じ得る。そうした誤情報は、AGSSの安全なサービスの提供能力を損なわせる恐れがある。

思春期の女の子の保護に対するコミュニティの受容と協力を促すため、チームは複数の戦略を展開した。プロジェクトではAGSSを通じた思春期の女の子の保護・ケアへのコミュニティの関与を促すため、対象となる各村に子どもの保護コミュニティ委員会(CCPC)を設置・強化した。コミュニティリーダー・宗教指導者・FGM実施者・さまざまな現地組織とのコミュニティ啓発活動も実施された。啓発活動は年齢とジェンダーに応じて計画・導入され、男女混合/男女別の討論クラブ・映画上映・討論会・地元劇団による演劇公演等の形で実施された。男性とメディアもSGBV撲滅への啓発活動に関与しており、特に好ましい男性性に関する活動が実施されている⁷。

宗教指導者のAGSS活動への関与・支援も、コミュニティのAGSSの受容・協力の促進要素となった。女性やユースの指導者を含む宗教・コミュニティ指導者(計720名)が、SGBVと意思決定プロセスへの女性の参加に関する研修を受けた。モスクで啓発を意図した発言をした宗教指導者もいた。こうした取り組みに対するメディア報道を確保し、女性指導者のAGSSを提唱する発言録を発信するため、プロジェクトはコミュニティラジオ局やソーシャルネットワークを通じてAGSSを推進した。

CCPCと宗教指導者によりAGSSが推進された後、AGSSの利用者が急増した。

AGSS設置のための安全な場所の選定

PIは、10代の女の子のための新たな場所を創出するのではなく、地方自治体とコミュニティと共に既存の空間を検証し、AGSS活動が実施可能な場所を特定した。この調査はPIのAGSS拠点選定チェックリストに基づき実施された。

12のAGSS拠点の特定後、PIのキタ事務所の運営チームが復旧ニーズを評価し、1カ月超にわたる作業が開始された。改修の目的は以下の通り:

- 床・天井・屋根等、コンクリート構造物の設置・修復
- 10代の女の子がコミュニティ住民に見られることなく集まれるよう、新しい門の設置による安全の確保
- 鍵・窓・屋根の修理
- 再塗装
- 月経衛生管理という思春期の女の子特有の衛生上のニーズを考慮に入れた、トイレの改修
- 障害を持つ人のためのスロープの設置
- 事例管理のための話し合い用に独立した個別の対話部屋の設置

AGSS利用への適格性基準の設定

キタの思春期の女の子は均質な集団ではなく、障害・民族・社会階層・宗教・家庭環境・婚姻状況・健康状態・そのほかの要因により、それぞれ異なる危険に瀕していた。

⁷ Plan International. (2021). SGBV事例に対する心理社会的ケアやSGBVの被害者/サバイバーの多部門連携ケア・安全な避難所の利用可能性に関するサービスのマッピングに関する報告書。

最も脆弱性の高い思春期の女の子を対象とするため、プロジェクトチームはAGSS利用の適格性基準を策定した。PIのAGSSの対象者は、10歳～17歳の思春期の女の子で、以下のいずれかの状況下にいる女の子を対象としている。

- SGBVや他の保護上の問題を抱える思春期のサバイバー
- 不就学の10代の若者
- 婚約・既婚・離婚・死別・見捨てられた(またはその可能性がある)10代の女の子
- 妊娠中・母親・子どもを養育している10代の女の子
- 障害を持つ10代の若者
- 避難民の10代の若者
- 別離した・同伴者のいない・孤児となった10代の女の子

コミュニティの女性チーム

キタで各AGSSは、当該コミュニティとの協議による透明性のある採用基準に基づいて選ばれた、3名の女性(2名のボランティアコミュニティリーダーと1名のケア実施者)により監督された。採用基準は以下の通りである。

- 女性であること
- 18歳以上であること
- 意欲的で従事可能であること
- フランス語の読み書きができること
- 女の子・10代の若者・ユース女性と関与した活動経験があり、彼女たちと適切にコミュニケーションを取れること
- 対人スキル: チームとしての活動能力・柔軟性・十分なコミュニケーション能力・プレッシャーへの対応力
- 子どもと女の子を尊重することで知られるコミュニティの一員であること
- 子どもに対する犯罪歴がないこと
- 社会文化活動やソーシャルワークの実務経験を有していることが望ましい

そのチームは5日間にわたり、子どもの保護とSGBV・未成年者とのコミュニケーションスキル・安全な空間の創出とグループ活動の運営・サバイバーとなる危険に瀕している10代の女の子の特定と心理的ケアに関する研修を受けた。

コミュニティボランティアとして、彼女たちは月毎にインセンティブを支給されていた。チームは子どものサバイバーのケアに関する専門的研修を受けた事例管理者1名の支援を受けていた。各事例管理者はプロジェクト内のコミュニンの1つを担当した。

事例管理は、AGSSに設けられた個別の対話室で行われ、チームはまた、余暇活動の企画・ピアサポートと共有・エンパワメントの開発に関する研修も受けた。

そして全プロジェクト職員は、性的搾取および虐待防止方針を含む行動規範に関する研修を受け、同意書に署名した。

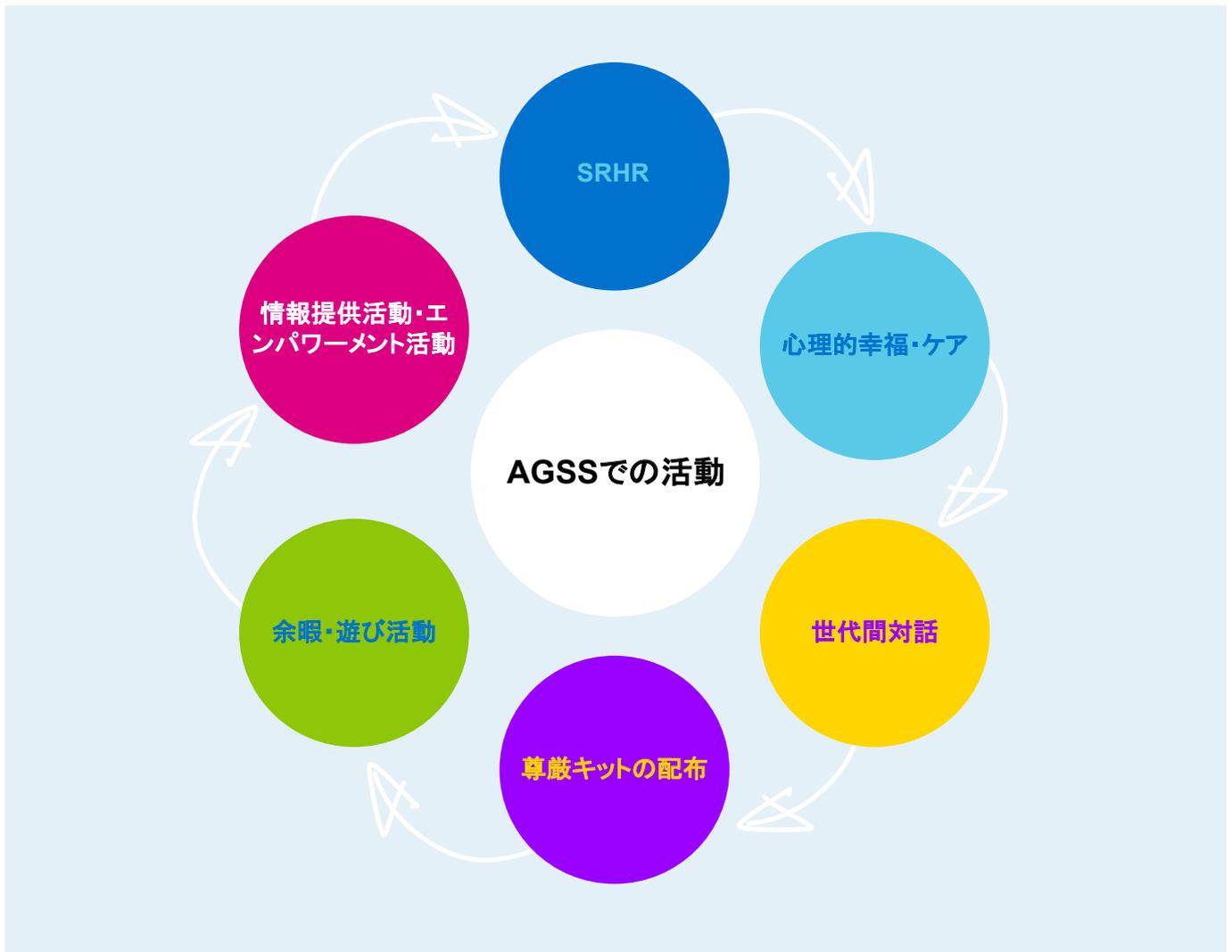
「これらの空間は、子どもに自身の権利について啓発・教育するのに有効な場だと思います。また、子どもが自身の権利に関する一般的な知識と実践的な理解を深められるので、社会性を育む場でもあります。こうした空間が子どもの幸福のために本当に必要な場所なのです。私自身も子どもと言えますが、こうした場がなければ、私たちの町で子どもの権利に特に注意が払われることはなかったでしょう」

思春期の女の子のFGDでの証言、サブーラ



第3段階

活動の設計・運営



余暇活動・情報提供活動・エンパワーメント活動

キタでは、思春期の女の子は移動を著しく制限され、家庭内作業や家族の責任の大部分を負わされており、その状況は緊急事態下で一層深化する。したがって、女の子と10代の若者が仲間とリラックスできる時間を持てるようにすることは、彼らの幸福とレジリエンスの強化のために必須であった。そうした活動は彼らにとって極めて有益であり、彼らがAGSSIに参加する主な動機の一つとなっていた。

実施される余暇・遊び活動は、参加者のジェンダー・年齢・特定のニーズに応じて調整する必要があった。最年少の思春期の女の子の層(10歳～14歳)に対しては、人形劇・演劇・塗り絵等の革新的な表現方法による心理社会的支援の提供がされた。年長の10代の若者(15歳～17歳)には、記憶力・観察力・忍耐力・共同体スキル育成のためのボードゲームが活用できた。AGSSはスポーツを行う場としても機能した。

余暇活動に加え、AGSSを女の子の権利に影響する問題や彼女たちが経験している危険・障壁に関する議論の場として活用することも欠かせないことであった。参加者の女の子と10代の若者を、必要なサービスに紹介することもAGSSチームの責任であった。

10代の女の子の主体性の強化とSGBVのリスクの低減のため、チームはPIの**10代の若者と保護者向けライフスキルツールキット**を導入した。3カ月間にわたる同プログラムは、危機下で10代の若者の健康/安全/幸福を支える情報・スキル・リソースを10代の若者と保護者に提供することを目的とし、10代の若者向けライフスキルセッション13回と保護者向け子育てセッション10回で構成された。

キタでのプロジェクトの一環として、10代の女の子が活動内容の選定とスケジュールの作成に携わった。それらの活動は参加者の年齢だけでなく、彼女たちの特定のニーズと現地の優先事項にも合わせて調整された。また、活動では女の子を年齢別のグループに分け、年齢に応じたニーズに対応するとともに、適切に活動内容を調節した。

以下は、本プロジェクトが実施した余暇・娯楽活動・情報提供活動・エンパワーメント活動の概要を示したものである。

- ✓ 演劇や描画等の芸術活動
- ✓ ボードゲーム/サイコロゲーム
- ✓ スポーツ
- ✓ 余暇活動・ゲーム・お茶を囲んでの語り合い
- ✓ 職人見習い制度
- ✓ 母親と10代の若者向け支援グループ
- ✓ コミュニティ内の女の子と女性の安全に関する懸念と危険性の理解のための議論
- ✓ 生殖の健康・保護リスク・SGBVに関する啓発活動と利用可能なサービスに関する情報提供
- ✓ 新たなライフスキルの習得のための活動
- ✓ 経済的管理と収入創出活動(IGA)に関する研修

「プロジェクト実施前は、女性は夫から殴られ、誰と結婚するかは彼女たちの保護者に託され、彼女たちは保護者に逆らえず、また、IGAは男性と男の子のみに厳格に限定されていました。子どもの権利は尊重されず、農作業・重い物の運搬・薪集め等との、最も過酷な労働を強いられていました。女の子は皆、FGMを受けさせられていました。この場所は、子ども・女性・女の子の権利に関し、コミュニティ全体が蒙昧主義に陥るのを防ぐ手段になっていると私は思います」

女性グループ代表、バランドゥグー



世代間対話

世代間対話とは、女の子・10代の女の子・異なる世代の女性が完全に秘密が守られた環境で、AGSSのPIファシリテーターが進行役を務め、議論・意見交換できる場であった。この取り組みによって、女の子や思春期の女性たちは互いを深く理解し、共に困難を乗り越える中で、コミュニティの絆をより強固なものにしていった。そうしてAGSSは、誤解や対立が解消される場となり、コミュニティの結束の強化と社会的団結を促進する役割を果たした。

母親・義理の母親・義理の姉妹・義理の祖母・ユース女性・10代の女の子といった、世代や立場の異なる女性たちが友好的な場で集まり、以下のような多様な話題について活発に意見交換を行うことができた。

- ✓ 子どもの権利
- ✓ 児童婚・DV・FGM等、女の子が直面している特定の危険と彼女たちの気持ち
- ✓ サービスの利用に対する障壁
- ✓ 女の子の懸念事項
- ✓ 10代の女の子が家族・コミュニティ・広範な社会で果たす役割
- ✓ 娘を守るための母と祖母の役割

女の子と女性の役割やDV、コミュニティ内の暴力に関する議論の促進により、参加者は自身の経験や考えを秘密が守られた中で、独自の形で表現し、特定の考えや判断を見直したり、コミュニティでの特定の慣行について議論したりすることが可能となった。そうした対話により、女の子は結婚・性行為・IPV・虐待等、他の場では決して尋ねられなかったであろう質問を投げかけた。プロジェクト終了時点で、実施地域全体で576回の世代間対話を実施され、1,344名の思春期女の子と7歳～14歳の女の子979名が参加した。

「自分の家族の中で、年上の女性たちに対して思っていることを言うことができるので、世代間対話に参加するのが好きでした。心にあったものを話せたのはこれが初めてでした。この対話の枠組みでは、あるテーマが私の生活のある面に触れた時に、気持ちが少し落ち着き、安堵することができました。これらの集会を通じて、母と私は、強制された結婚・FGM・女子教育について多くを学びました。今までは、私たちが経験したことはすべて社会に参加するため、そして何よりも家族のために当然であり、必要なことだと思っていました。啓発活動により、そうした慣習が招く結果を理解しました」

プロジェクトのユース参加者

教訓

- 世代間対話は、性暴力の要因となり得る文化的規範に挑むことを促す。年長者たちは、コミュニティの考え方や行動に前向きな変化を起こす上で重要な役割を果たし得る。
- 世代間対話は、女の子の自信を育み、自身のニーズや懸念の表明を促すことで、彼女たちのエンパワメントに寄与する。
- AGSSは、女の子が性暴力とそのさまざまな形態、および彼女たちを守る権利について学ぶ機会を提供した。知識を得た女の子は、暴力の状況を認識・報告する確率が高くなった。
- AGSSは、女の子同士がつながりを築き、相互支援することを促進した。似た経験を乗り越えた女の子同士は、自身の経験を共有し、他者に貴重な支援を提供できた。

尊厳キットの配布

文脈分析の結果、思春期の女の子の多くが、サービスの利用困難や貧困といったCOVID-19危機の影響により、月経衛生管理を適切に行うことが困難になっていることが判明した。彼女たちはまた、月経期間中にはスティグマや社会的排除を経験していた。そのため、思春期の女の子は、衛生用品の入手に対し数多くの障壁を経験し、移動の自由を制限されるだけでなく、学校・医療・保護プログラム等の基本サービスの利用を妨げられ、SGBVへの脆弱性が高まっていた。

キタにそうしたニーズに対応するサービスが存在せず、本プロジェクトはAGSS参加者に対し755個の尊厳キットを配布した。

キットの受益者は以下の基準に基づいて選ばれた。

- AGSS参加者かつ10代の女の子向けの活動の参加者
- 13歳～17歳
- AGSSファシリテーターにより脆弱性基準を満たすとされた10代の若者
- SGBVのサバイバー

キットの製作は、コミュニティの10代の女の子と女性の特定のニーズを考慮するため、彼女たちと共同で行われた。キットの素材と内容は10代の女の子自身により決定された。このキットには、衣類や衛生用品、日常生活に必要な道具がバランスよく含まれていた。具体的には、腰布・Tシャツ・再利用可能な綿製月経用品キット・シーツ・笛・ペーストやクリーム・歯ブラシ・靴一足・洗濯用の粉洗剤・ソーラーライト・下着一枚が配布された。再利用可能な綿製タオルは、使用後に洗濯して使いたいと考えている10代の女の子に好まれた。

キット配布は、月経衛生管理を含む性と生殖に関する健康と権利(SRHR)の啓発・教育活動と併せて実施された。活動内容は、思春期の女の子が関与し調整がなされた。彼女たちが制作した4つのイメージボックスはコミュニティレベルで試験運用され、後に子ども保護委員会による啓発キャンペーンで使用された。

上記の活動後、プロジェクトチームは配布後のアンケート調査を実施した。その調査結果から、AGSSが10代の女の子が文化的にタブー視されるテーマについて自由に話せる安全な場として機能したことが判明した。インタビューした10代の女の子は皆、配布時に安全性を感じたと述べた。大部分の配布は女性PI職員により行われたが、コミュニティリーダーが配布の監督を要請した村では、配布はAGSSの外で行われた。

配布後のアンケート調査では、10代の女の子がキットの配布頻度の増加、または長期間のニーズに対応するよう内容物を増やしてほしいと望んでいることも判明した。そして、彼女たちは月経痛の対処への困難を訴えていたが、特にアセトアミノフェン等の医薬品が地域で入手できず、キットでは対応できていなかった。そのアンケート結果を受け、示されたニーズに応えるよう、その後の配布ではキットの内容物が見直された。

教訓

- 10代の女の子がキット開発に参加したことで、彼女たちのニーズを的確に捉えつつ、彼女たちの文化的背景の特徴に合わせた対応が可能となった。
- 思春期の女の子の変化するニーズに対応するために、配布後にアンケート調査実施が必要である。
- キットの配布は、SRHRに関する啓発活動の実施を併せるべきである。これにより、思春期の女の子に利用可能なさまざまな月経衛生管理方法について知らせ、性と生殖の健康に関する知識を高めることができる。



IGA

AGSSで、思春期の女の子のIGA実施を支援する活動が行われていた。IGAは児童婚や経済的依存状況への代替手段を提供し、思春期の女の子がSGBVに遭う可能性を低減させる。経済的エンパワーメントは、女の子が自身の人生に関する意思決定を行う能力を高め、リソースの入手と管理を可能にし、家庭やコミュニティの意思決定での発言権を拡大させて社会的地位の向上につながる。また、SGBVのサバイバーの社会復帰と解放を支援し、再度被害に遭うことを回避させる。

本プロジェクトは、教育制度への再統合が不可能となった15歳以上の女の子200名とSGBVのサバイバーまたはその危機に瀕している18歳～24歳のユース女性に対し、IGA支援を提供した。

それらのIGA支援活動の実行のため、以下の取り組みが行われた:

- プロジェクトチームは、プロジェクト対象地域で家畜肥育・羊/山羊飼育・農産物の販売や加工等、有望な部門を特定するため市場調査を実施した。
- 10代の女の子とユース女性は、計算/予算編成/貯蓄等の財務管理・IGA開発・ビジネスモデルの構築/市場と顧客ニーズの分析/販売技術等のビジネススキルに関する研修を受けた。
- 10代の女の子とユース女性には各人、羊・山羊の飼育や農産物の販売・加工等の活動資金として10万CFAフランを支給した。
- プロジェクトチームは提供後の観察を実施し、プロジェクトの過程と受けた支援に対する対象者の満足度を測定し、資金の使用状況とIGAの成果を検証した。

「プロジェクトとその拠点が開設してから、女性と女の子がSGBVの事例を報告し、被害者がケアを受け、話を聞いてもらえる場所ができ、SGBVに関するタブーが解け始めています。ユース女性がコミュニティレベルでIGAを行い、家計に貢献しています。これは、私たちのコミュニティ、特にプロジェクトの介入地域の女の子と女性の経済的エンパワーメントにとって好ましい要素です」

**SLPFEF(女性・子ども・家族を応援する
現地サービス)代表、キタ**

教訓

- AGSSは、監督された安全な環境下でIGAの実施に向けた訓練や支援を提供し、思春期の女の子の**経済的エンパワーメント**を促した。それにより、彼女たちの搾取や暴力に遭う危険性が低減された。



SGBVのサバイバーである思春期の女の子に対する心理社会的ケアと紹介

AGSSの主要目的の1つは、SGBVの事例の特定・管理であった。事例管理には、SGBVのサバイバーとその家族への心理社会的支援やサバイバーのニーズを満たすための補完的サービスへの紹介が含まれた。

事例管理者は、上司の支援を受け、サバイバーとその家族との信頼関係の構築・サバイバーのニーズの評価・目標設定・介入策策定・必要なサービスの準備を行った。PIIは、チームがキタの現地状況に合わせて調整した特定のツール⁸を活用した。

登録された全参加者は、医療・心理・法的・緊急支援を含む包括的ケアを受け、必要なサービス利用のための金銭的支援も支給された。サバイバーは緊急移動資金も利用可能であった。紹介先の医療の質を保障するため、PIIはMédécins du Monde Belgiumと提携し、特に曝露後予防(抗HIV薬)(PEP)キット⁹の配布と医療従事者へのSGBV臨床管理研修により、それらのサービスを評価・改善した。

プロジェクトの最終評価では、PIIの事例管理者の直接的な介入策なしでケアサービスの利用度を向上させるに、介入地域での啓発活動の継続的实施が必要であることが強調された。

また、裁判所に訴える選択をしたサバイバーは1%未満であり、主な理由は沈黙の文化・報復やスティグマへの恐れ・司法制度に関する知識と信頼の欠如が挙げられている。加えて、子どものための裁判官が配置された裁判所がある唯一の地区を例外として、キタ地域では司法機関の実効的な存在が欠如している。そして、コミュニティには伝統的指導者による調停を好む傾向があり、それが司法制度の機能を損ねていた。本プロジェクトは、その慣行がサバイバーに悪影響を及ぼすため、その抑止を目指した。

⁸ 国際救済委員会マリの子どもの保護下位集団の「事例管理」作業部会による「子どものサバイバーのケア」ツールと事例管理ツール。

⁹ PEPは、HIVに曝露した個人に対する緊急医療処置であり、曝露した個人のHIV感染の予防を目的としている。詳細は以下を参照：
[PEP Kit Programme | HR Portal \(un.org\)](#)

教訓

- SGBVがタブー視される状況下で、AGSSはSGBVの危険にさらされている10代の若者とサバイバーの特定を可能にした。AGSSは、判断を受けることを恐れることなく経験を共有できる**安全で秘密が守られる**空間を提供し、それがSGBVの経験の告白を促進させた。
- AGSSは脆弱状況下の10代の女の子に重要な情報を提供し、**心理的・医療的・法的支援サービスの利用**を促進させた。
- 10代の女の子のトラウマや暴力の兆候を特定できるよう、AGSS事例管理者に対する**積極的傾聴**の訓練を行い、言語的・非言語的サインを観察させることが重要である。
- 沈黙の文化・報復への恐れ・スティグマ化・司法制度への信頼の欠如が、SGBVの事例での正式な司法制度の利用を制限していた。危機に瀕している思春期の女の子とサバイバーに司法制度に関する**情報を提供し**、コミュニティ関係者にそれらの機関の重要性の啓発することが、SGBVのサバイバーのための正義を保障するために必須である。
- 安全な空間は、SGBVのサバイバーへの**緊急医療処置**を含む、基本的な**医療サービス**を提供できるよう設備を整えることができる¹⁰。それは、即時かつ適切な医療処置を保障できるものである。

¹⁰ GBV AoR Helpdesk (2022) Understanding the Core Functions and Differences between Women and Girls Safe Spaces and One Stop Centers. [Understanding the Core Functions and Differences between Women and Girls Safe Spaces and One Stop Centers – GBV AoR Helpdesk 2022 | Gender-Based Violence Area of Responsibility](#)

第4段階

監督・評価

プロジェクト全体の説明責任を保障するため、チームは子どもと10代の若者向けに設計されたフィードバック体制の構築・管理の研修を受けた。各分野は定期的に評価され、改善の余地を特定し、活動の質を維持した。監督・評価活動は継続的に実施された。

コミュニティボランティアやファシリテーターとPI保護職員による日々の監督、女の子の各活動への参加状況・資料の使用状況・活動中のコミュニケーション・交流の質を分析した。各活動終了時には、女の子の満足度評価を実施した。その際、幸せ/満足・がっかり・怒り・心配等の、異なる感情を表す絵文字の使用等、彼女たちのコミュニケーション能力に合わせた教授法を採用した。AGSSには提案箱を設置し、苦情収集のためCCPCには説明責任担当者が配置された。

プロジェクトチームは空間観察監督シート・レジリエンス尺度・心理社会的幸福度尺度といった、[子どもにやさしい空間ツールキット](#)のツールを採用し、その結果は毎月10代の女の子と共有・議論された。また、一般化された自己効力感尺度を用いて、サバイバーのエンパワーメントと将来の暴力防止に重要な要素である、思春期の女の子の自信と自己効力感の向上に対し、AGSSが与える影響を測定した。

最終評価と撤退の質は、外部コンサルティング会社により評価された。

第5段階

撤退戦略

PIチームはコミュニティ住民と常に連携しており、ケアを支援するさまざまな現地サービスが存在した。

コミュニティやサービス機関との連携という文脈で、能力構築は利害関係者間の相互学習過程である。そうした連携は、サービスの質と成果の向上を実現させるだけでなく、現地サービスとコミュニティとの結束を強化し、その専門性を認識することも可能にする。コミュニティの取り組みは撤退戦略の重要な要素であり、40のコミュニティ保護委員会の設立・強化により、啓発活動によるSGBV防止の継続性が確保され、サバイバーの利用可能なサービスへの紹介も実現した。情報フィードバック体制の構築により、争いや苦情の管理が可能となった。また、子どもの保護問題や思春期の女の子と女性の権利に関する研修を受け、その実現に尽力する720名のコミュニティリーダーと、コミュニティレベルでの成果を監督する25名のAGSS監視員の関与が、この取り組みを強化した。

結果、コミュニティと10代の女の子と共に設計し、現地のサービスにより改善されたそれらの空間は、プロジェクト期間を通して支援を受けながらコミュニティに引き継がれていくことになった。



10代の女の子の生活へのAGSSの影響に関する考察



AGSSは「カイのコミュニティでCOVID-19により深化したSGBVに対する重大なニーズへの対応」プロジェクトで、**重要な介入策**であった。本事例研究は、対象コミュニティでの性暴力の防止・対応管理におけるAGSSの顕著な効果を明らかにした。包括的に設計がされたそれらの空間は、安全な環境の創出・世代間対話の統合・直接的なケアサービスの提供・IGAの導入等、さまざまな面でその有効性を実証した。それらの空間は、性暴力のサバイバーである思春期の若者が参加により、交流し、学び、自己表現しながら人生を再構築できるようエンパワーメントすることを目的とした、PIの緊急対応策の一つである。

防止の観点から、AGSSはSGBVのサバイバーにとって重要な窓口となり、専門的な保護・医療・法的サービスへの安全な利用を促進した。事例管理では、計97件のSGBV事例が特定され、身体的暴行が49%・レイプ/性的暴行が14%・心理/情緒的暴力が13%であった。研修を受けた事例管理者は、サバイバーの特定と、年齢やニーズに応じた包括的で個別化されたケアを提供するための紹介ができた。結果として、SGBVのサバイバーと特定された人の96%が、尊厳を重視した良質な安全なケアを受けたと述べた。そのため、事例管理体制はSGBV事例の特定と、PIへの紹介を通じたサバイバー全員への包括的なケアの提供に対し有効であったと言える。とはいえ、PIの介入策なしでサバイバーを支援するコミュニティの能力強化のためには、一層の努力が必要であり、そのため、AGSSはサバイバーのケアの強化に必須の要素である。

ケア・紹介サービスと共に、幅広い**教育的・楽しい活動**が提供された。AGSSは、思春期の女の子専用で設けられた安全で配慮された環境の中で、情報・知識・技能の入手/習得を促した。尊厳キット配布やライフスキル講座等、参加型で年齢に応じたさまざまな活動の提供により、10代の女の子と女性の知識は著しく深まった。SGBVに関するスキルが向上している、と回答した10代の女の子と女性の割合は、プロジェクト実施前は45%だったが実施後には81%に達した。

学習活動も含まれるが、10代の女の子にとってAGSSはまず何よりも、**楽しめる安全な場所**であった。描画・語り・スポーツ・世代間対話等の気楽な活動も、彼女たちの幸福度向上に寄与した。事実、最終評価時にインタビューした10代の女の子の77%が、自己実現を保障する心理社会的スキルを身につけたと回答した。したがってAGSSは、彼女たちを楽しみ・学び・互いに関係を築きながらコミュニティの絆を意識し強化する、彼女たち専用の空間を提供していた。

AGSSはまた、思春期の女の子の**エンパワーメント**を促進する場でもあった。キタでは、経済的エンパワーメントが、思春期の母親と既婚の女の子全員を含むユース女性が切実に求めているものであると認識された。補完的介入策としてIGAの開始は、参加者の経済的エンパワーメントに貢献する戦略であった。

キタでのAGSSプログラムの成功には、**コミュニティの関与**と主要なコミュニティ関係者の支援が必須であった。プロジェクト全体の実施後に、ジェンダー平等に向けた考え方とGBVへの反対姿勢について前向きな変化がみられ、ジェンダー平等を支持するコミュニティ住民は、プロジェクト実施前は12%だったが実施後には83%となった。また、コミュニティ・伝統的指導者もジェンダー平等とGBV反対という前向きな考えを示している割合が、プロジェクト実施前の18%から実施後には84%と、大幅に上昇した。

提言

キタのコミュニンでのAGSSの実施と得られた教訓を踏まえ、PIはマリの女の子の保護を強化するため、以下を提言したい:

1. AGSSの設置前に、ジェンダー分析・リスクおよびニーズ評価・保護サービスのマッピングを実施すること

AGSSの実施には、思春期の女の子に影響する力関係を含む、コミュニティの規範・慣行の検証が必要である。彼女たちが経験する危険性と、AGSSが提供する活動への参加によってDVやIPV等の保護リスクやSGBVに遭う可能性を高め得る行動・態度の理解が必須である。

AGSSの開始前に、AGSSで告白された暴力の事例の紹介を適切に行うため、保護サービスのマッピング・評価を実施すること。そのマッピングは、コミュニティ・思春期の女の子・保護組織や集団/作業部会からの情報収集により実施できる。

2. 思春期の女の子がAGSSの設計・開発に積極的かつ敬意を払われ参加できるようにすること

思春期の女の子と女性は、AGSSの立地選定・建設・活動運営・プログラム評価を含む、設計段階からその展開の全過程に関与しなければいけない。その参加は自発的であり、彼女たちのスケジュールを尊重し、精神的負担を増やさないものであることが求められる。施設の稼働開始前に、活動の影響や可能な軽減策に関する彼女たちの意見や懸念が考慮されることが極めて重要である。

3. 女性のみAGSS管理チームを設置すること

チームは現地の状況に合わせて調整できるが、男女別の環境を好む文化的傾向に対応し、思春期の女の子が快適で安全に、自身の経験や幸福に関するデリケートな話題について自由に話し合えるようにするため、AGSSは女性のみで運営されることが望ましい。それによりコミュニケーションと信頼が構築され、10代の女の子は似た経験を持つ人びとやジェンダー関連の問題を深く理解する人びとから理解・支えられていると感じられるようになる。

資格や経験が求められるため、女性のみチーム編成に向けた採用が困難な場合がある。そのため、コミュニティで思春期の女の子を積極的に支援できるかという、各候補者の個人的資質・能力に焦点を当てることが重要である。専門的スキルは、AGSSの設立・楽しい活動の運営・SGBVや保護が必要な事例の特定・心理的応急処置・思春期の女の子とのコミュニケーションに関して、チーム向けの包括的な研修プログラムの実施により育成できる。チームへの継続的支援は必須である。

4. 参加者の年齢とニーズに応じた多様な活動を提供し、AGSSでの心理社会的支援を最適化すること

AGSSは、特に人道支援状況下での、女の子・思春期の女の子・ユース女性の心理社会的幸福の向上と社会的絆の強化を目的とする。AGSSの一環として提供される心理社会的支援活動は、思春期の女の子が経験する避難の影響・慢性的なストレス・自身の人生や環境に対する主導権の欠如といった感覚の軽減を目指す。

これらの活動は、裁縫グループ・お茶会・ダンス活動等、カジュアルな形であり得る。彼女たちへのより公式な活動には、心理社会的介入策やライフスキル研修等が含まれる。これらの活動は現地語で実施され、参加者の年齢・個々のニーズ・現地の文化に合わせて調整されるべきである。

5. AGSSでSGBVの撲滅・スティグマ解消の主要戦略として、世代間対話を活用すること

世代間対話は、SGBVとの闘いにおいて有効であることが実証されている。そうした空間は、特に、10代の女の子・義母・コミュニティの他の女の子や女性の対話を促すことで、家庭生活に対する家族の影響等、外では語れないタブー視されたテーマに関して安全に議論できる場を提供する。

そうした世代間対話はコミュニティから高く評価されており、さまざまな人びとに自身の感情を表現する機会を提供し、世代間の経験共有を促すことで、互いの権利の理解・意識向上を実現できる。そのため、そうした対話はSGBVの撲滅・スティグマ解消に必須の戦略と言える。

6. コミュニティ・宗教指導者の戦略的関与により、AGSSの影響力と持続可能性を強化すること

プロジェクト評価から、AGSSの受け入れと持続可能性にはコミュニティの関与が極めて重要であることが判明した。女性を含む、コミュニティリーダー・宗教指導者といった主要な賛同者の特定は重要である。それら指導者は、自身のコミュニティでの文化的・宗教的規範に大きな影響力を持っている。

彼らの支援により、AGSSはコミュニティに敬意を払われて統合され、正当性と受容性が高まる。彼らの協力はまた、コミュニティの積極的な関与を促し、信頼と集団的責任を構築する。加えて、彼らの関与は、性暴力等のデリケートな問題への対応を可能にし、彼らは開かれた対話の構築により、文化的抵抗の克服を促すことができる。彼らは自身のコミュニティ特有の文化的・宗教的な特徴の詳細を理解しており、彼らの関与により、AGSSが提供するプログラムやサービスが文化的に適切であることを保障し、その効果が高まる。

この現地の関与の一環として、子どもの保護に関する啓発キャンペーンや思春期の女の子のAGSSへの紹介もCCPCにより実施される。

7. SGBVの事例特定・サービスへの紹介のため、AGSSを機能させること

AGSSは思春期の女の子に心理社会的支援の提供・情報共有・利用可能な保護サービスへの紹介を行っている。AGSS設置前は、タブー視や虐待行為に対する認識の欠如により、GBVの事例がほぼ報告されていなかったため、AGSSの

存在は大きな影響力を持つ。今日では、ファシリテーターや事例管理者の支援により、思春期の女の子はネグレクトや強制的な中途退学を含むさまざまな形態の暴力を認識・報告する方法を学んでいる。

AGSSは、専門機関との連携の一環として、医療従事者による栄養不良の検査するなど、臨機応変な専門サービス提供の場としても利用できる可能性がある。

だが、PIの事例管理者による直接的な介入策なしでもSGBVのサバイバーにケアサービス利用を促すには、介入地域での啓発活動の継続が求められる。

8. 緊急事態下の子どもへの保護のための総合戦略にAGSSを統合すること

緊急事態下の子どもへの保護の包括的戦略において、AGSSは必須要素である。しかし、保護委員会の設置/強化・コミュニティへのジェンダー平等の啓発・男性と男の子のSGBVの撲滅への活動への関与等、コミュニティの取り組みによって補完される必要がある。また、収入創出プログラムや貯蓄・連帯グループの設立等、経済的エンパワーメントの促進活動も、AGSSの効果を高めるために推奨される。





Annex

参考文献

AGSS Activities

- Adolescent Girl Safe Spaces Guidance Note: internal document available upon request
- All the tools mentioned are available in the [Child-Friendly Spaces toolbox](#)
- AGSS site selection checklist: internal document available upon request
- Child-Centred multi-risk assessments: [a field guide and toolkit](#)
- Plan International. [Adolescent Life Skills and Parenting Toolkit](#)

Guidance, tools and capacity-building:

- [Child Friendly Space Guidance Note and Toolkit](#)
- [Adolescent Programming Toolkit: Guidance and tools for adolescent programming and girls' empowerment in crisis setting](#)
- Gender Transformative Programming and Influencing guidance note: internal document available upon request
- [Child-friendly Feedback Mechanisms](#)
- Gender, Age and Inclusion Analytical Framework and Tools: internal document available upon request

Other safe spaces guidance:

- International Rescue Committee and International Medical Corps. [Women and Girls' Safe Spaces: A Toolkit for Advancing Women's and Girl's Empowerment in Humanitarian Settings](#)
- UNFPA. [Women & Girls Safe Spaces: A guidance note based on lessons learned from the Syrian crisis](#). March 2015.
- UNFPA. Establishing Women and Girls' Safe Spaces. Training Manual – [Facilitator's Guide](#)

GBV AoR Helpdesk (2022) Understanding the Core Functions and Differences between Women and Girls Safe Spaces and One Stop Centers. [Understanding the Core Functions and Differences between Women and Girls Safe Spaces and One Stop Centers - GBV AoR Helpdesk 2022 | Gender-Based Violence Area of Responsibility](#)

INSTAT, CPS/SS-DS-PF and ICF. (2019). Mali Demographic and Health Survey 2018.

IRC & UNICEF (2012). "Caring for Child Survivors of Sexual Abuse" tool. [IRC_CCSGuide-English-Full.pdf \(childprotectionpractitioners.org\)](#)

UN Women, UNFPA. (2020). Study on the impact of COVID 19 on gender-based violence in Mali. [Policy-brief-The-impact-of-COVID-19-on-women-en.pdf \(unwomen.org\)](#)

プラン・インターナショナル・ベルギーは、1983年に設立された独立した人道支援・開発組織であり、子どもの権利と女の子の平等を推進している。私たちは、すべての子どもの力と可能性を信じている。だが、その可能性は貧困・暴力・排除・差別阻まれることが多い。そして最も影響を受けるのは女の子である。子ども・ユース・支援者・パートナーと共に、私たちは女の子とあらゆる脆弱な子どもが直面する問題の根本原因に取り組み、公正な世界の実現を目指している。80カ国超で、私たちは女の子の権利を、誕生から成人になるまで守り、女の子全員が安全を感じられるよう、彼女たち自身が世界に自身が何者で何を望んでいるのかを語れるよう、夢を叶えられるようにし、女の子全員が自由になれるようにする。

謝辞

今回言及されたプロジェクトは、ベルギーDGDの資金提供による5カ年計画の一環であり、同局の継続的な支援に感謝申し上げたい。

本事例研究は、プラン・インターナショナル・ベルギーのSarah VandendoorenとNîma Mesbahiの共同執筆によるものである。執筆過程で協力してくれたプラン・インターナショナル・ベルギー職員: Marta Ricci, Nolwenn Gontard, Chiara Demoulin, Nassima El Ouary, ならびにプラン・インターナショナル・マリ職員: Issa Toloba, Issa Yalcouye, Bintou Sagara, Fily Diallo, Aboudramane Goitaに感謝申し上げたい。

本文: ©プラン・インターナショナル ベルギー、2024年
写真: ©Plan International



Belgium
partner in development